

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部	3
2. 教育学研究科	5
3. 教職開発専攻	7
4. 経済学部	9
5. 経済学研究科	12
6. 医学部	15
7. 医学系研究科	17
8. 理工学部	19
9. 工学研究科	21
10. 福祉健康科学部	23
11. 福祉社会科学研究科	25

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
教職開発専攻	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
経済学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
医学系研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
理工学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
工学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
福祉健康科学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
福祉社会科学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある



## 1. 教育学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 …………… 4 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 …………… 4 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 「まなびんぐサポート」は、大分市内の幼稚園、小学校・中学校からの支援要請に応じて学生を派遣し、子どもの学習支援や教師の教育活動を補助する事業で、大分大学教育学部と大分市教育委員会との連携のもとで行っている。学生にとっては、教育現場における教師の仕事を見て経験することで学び、教育観・子ども観・授業観などを育むことができる。この学習支援の充実のために実施している「まなびんぐサポート」事業は授業「教育支援実践研究Ⅰ、教育支援実践研究Ⅱ」として単位化して現在に至っている。参加学生数及び協力学校園数も恒常的に一定規模を確保し、事業として定着してきている。
- 平成 28 年度入試より推薦入試で個人面接および集団討論を、前期・後期入試で集団討論を実施している。これにより、教員を志望する学生の受け入れを促進することで、高い教員就職率を維持することができた。
- 特に附属学校と県教育委員会との連携を強め、教育実習の評価に大分県の人材育成指標を反映し四校園および公立学校実習で共通化を図るなどの取組を行っている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 2. 教育学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 6 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 6 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 教育における ICT 活用事例と理論を学ぶため、学校教育専攻と教職開発専攻の大学院生が同時に受講できる授業を共同開講し、学校教育専攻と教職開発専攻両方の教員が共同してグループ討論やプレゼンテーションなどアクティブラーニングを柱にした授業を行った。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

### 3. 教職開発専攻

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 8 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 8 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 報告会を学部教員および連携協力校教員にも公開して実施することで、教育目標の達成度を評価している。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

**〔特色ある点〕**

- 県教育委員会との連携により、毎年教職開発専攻学校経営コース修了者の数  
名が修了後すぐに、現在までの修了者の内、半数以上が教頭として活躍してい  
る。

#### 4. 経済学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 10 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 11 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- 平成 29 年には、社会における課題探究や課題解決に重点をおいたカリキュラム編成である社会イノベーション学科を新設し、さらには全 4 学科において課題探求型科目を充実させた。連携協定を結んだ組織からの寄付による社会人講義を 7 科目整備し、多様な分野で活躍する実務家の講義を受講できる場を拡大させてきたところ、平成 28 年からの 4 年間で 3,303 名が受講した。
- 最長 1 年間交流協定校へ留学し、留学先大学で取得した単位を経済学部でも認定し、4 年間で卒業する 1 年次後期からの教育プログラム IBP (International Business Program) を平成 19 年より開始した。本プログラム開始前の平成 18 年において留学した学生は 2 名だったが、開始後は毎年 30 名程度が留学するに至っている。
- 農山漁村地域における課題解決に取り組む「田舎で輝き隊！」プログラムでは 1 年次後期から県内各地域の自治体や各種団体と連携し、地域づくり課題の洗い出しや計画策定、イベントの企画・実施などに携わっている。自主的なサークルも派生し、毎年概ね 10 名ずつがプログラムを修了しマネジャーに認定されている。
- IBP 留学プログラムを皮切りに、語学研修、学生国際フォーラム、国際ボランティアといった多様な留学や海外での勉学が可能な機会を用意し、参加学生数は、学部単年度で 74 名（令和元年度）、平成 28 年度から延べ 273 名に達している。留学生受け入れについても国費だけではなく、短期交換留学プログラム、最終年度を大分大学で受け入れる中国の江漢大学との 3 + 1 プログラムなど工夫しており、令和元年度は 23 名、平成 28 年度から延べ 98 名を受け入れている。
- 平成 29 年度の社会イノベーション学科開設に伴い、国際地域も含めて地域連携によって展開される授業は新規に 11 科目を新たに開講した。これら授業では自治体・議会・企業・非営利組織等と幅広く連携をしており、令和元年度は合計 21 か所と多彩な連携先による授業展開を行うことができている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 令和元年度について、就職者数に占める大分地区への就職者の比率は3割を上回り、大分を含めた九州地区への就職者の比率6割、経済学部アドミッション・ポリシーに示す地域社会で活躍する人材を養成するという目的を果たしている。また、業種別では金融の比率が最も高く2割を超え、ついで、公務、卸売・小売、製造の順となっており、経済学部アドミッション・ポリシーに示す、金融界、産業界で活躍する人材や公務に携わる人材を養成するという目的を果たしている。

## 5. 経済学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況	.....	13	)
( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況	.....	14	)

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

### 〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

### 〔特色ある点〕

- カリキュラム・ポリシーに基づき、博士前期課程では、経済社会政策専攻に、経済政策や社会政策の理論と歴史に関する総合的アプローチを基礎とする2コースを、地域経営政策専攻には、地域経済分析や企業経営に必要な情報に関する実践的アプローチを基礎とする3コースを設置し、コース毎にコア科目と選択科目を設け、基礎的・理論的科目から政策的・応用的科目まで体系的に編成している。
- 博士前期課程では、ヒアリングやフィールドワーク等の授業形態の多様化を実施している。特に地方行政の幹部や地域企業の経営トップ等を講師として迎える授業「課題研究」を、大学院同窓や一般市民にも公開開講して、地域社会の課題と政策方向に関する事例研究として実施している。社会人からの志望が高く、受講生が研究科最多である租税法演習・特研は、税理士資格取得に関連するため、国税庁からの出向による実務家教員を配置して安定した指導体制を整えている。
- 院生の過半を占める留学生の支援として、日本での就職志望に応え、初年次留学生向け科目「日本の経済と経営」内で、研究科同窓会会長であり県労働局OBである社会人講師による、日本における就職活動形式についての授業や、同窓会職域支部との共催による「先輩との意見交換会」を開催している。留学生を中心とした生活支援として、全学「男女共同参画推進」、学部「久保奨学基金」等の奨学金制度、および学部独自のTA制度（年間100万円）を整備している。
- 博士前期課程においては、入学者の過半を占める留学生にたいして、志願者確保として、指定校推薦による中国での現地入試および秋季入学の実施、平成30年度からは国内の大学に在籍している留学生を対象に推薦入試制度を拡大し、留学生の受験の利便性を高めている。
- 法学系以外の学士課程教育卒業生のため、公法・私法両分野教員が分担する講義科目「基礎法学」を、令和元年度からカリキュラム上に設定し、社会人学生からの法律学分野でのリメディアル教育の要請に応えている。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

### 〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

### 〔特色ある点〕

- 博士前期課程については、修了者のうち3割程度を公務員、税理士、企業経営など現職社会人が占めており、社会人のキャリアアップとして機能している。
- 修了生による経済学研究科の研究指導への評価では、基礎科目等の社会人へのリメディアル教育について、また、論文作成指導としては、政策科学コースにおける国税庁出向社会人教員等による研究指導、地域政策コースにおけるインタビュー等調査の指導について、好意的に評価されている。

## 6. 医学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 16 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 16 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 専門職連携教育 IPE として、平成 30 年（平成 30）度より、医学部（医学科・看護学科）および福祉健康科学部（理学療法コース・心理学コース・社会福祉実践コース）の合同演習（4 年次生による事例検討）を計画・検討し、令和元年（2019）11 月に実施した。
- これまで単位化されていなかった臨床実習直前の講義（医療安全管理、医療情報管理など）にスキルスラボ実習、多職種連携教育、キャリア教育などを新たに加え「臨床実習入門総合医学」という科目として扱うこととした。これにより、臨床実習にスムーズに進める実践的な授業を実施することが可能となった。

同時に、これまで卒業判定に用いられてこなかった Stage 1 の成績を「臨床社会医学実習Ⅰ」、Stage 2 を「臨床社会医学実習Ⅱ」に反映させることとした。これに係る規程改正は令和元年度中に行った。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 7. 医学系研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 18 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 18 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 高齢化率が高い九州において、国立大学の大学院では初の老人看護専門看護師を養成するコースを開設した。
- 令和2年度から、医学部在学中に科目等履修生として医学系研究科博士課程の科目の一部を受講・単位修得させる Pre-ORPhD プログラムを開設した。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 8. 理工学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 20 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 20 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 新入生全員に TOEIC-IP 試験を受験料大学負担で受験させ、その結果は英語の単位認定に活用している。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 9. 工学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 22 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 22 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 教員の教育力向上のため、年間を通じて、高等教育開発センターならびに工学研究科独自のファカルティ・ディベロップメント活動を実施し、教員の参加率は、8割を超える。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 10. 福祉健康科学部

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 24 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 24 )

## 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 地域からの多大な協力を得て実施している科目として、「アーリー・エクスポージャー」と「チュートリアルⅣ」がある。

アーリー・エクスポージャーは、入学後間もない時期に行うものであり、地域の福祉施設、病院等に見学実習に赴き、実際の現場を体験することで、専門職となる意思を確認し、今後の学修の動機付けを行うことを目的とする重要な科目である。多くの福祉施設等がこの科目の趣旨に賛同いただき、毎年度実習生の受け入れや教員とともに学生指導にあたっている。

チュートリアルⅣに関しては、令和元年度においては大分県佐伯市と杵築市の全面的協力のもと、合計6回にわたり実際の地域ケア会議に学生が参加するなど地域と連携した実践的教育を実施している。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

## 11. 福祉社会科学研究科

( 分析項目Ⅰ 教育活動の状況 ..... 26 )

( 分析項目Ⅱ 教育成果の状況 ..... 26 )

**分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

教育活動の基本的な質を実現している。

**〔特色ある点〕**

- 2年毎に海外研修を実施しており、研修先は主にスウェーデンのメーラダーレン大学及び韓国の大邱大学校である。研修では、グローバルな視点を養うとともに海外の教員及び大学院生との交流を深めている。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 相応の質にある**

**〔判断理由〕**

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。